

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-134	12-324	慶應義塾大学
<b>題名（原題／訳）</b>		
<p>Randomized trial comparing computer-delivered and face-to-face personalized feedback interventions for high-risk drinking among college students.</p> <p>高リスクで飲酒する大学生へのコンピュータによるまたは対面の個人的フィードバック介入の無作為比較試験</p>		
<b>執筆者</b>		
Wagener TL, Leffingwell TR, Mignogna J, Mignogna MR, Weaver CC, et al		
<b>掲載誌</b>		
J Subst Abuse Treat. 2012 Sep;43(2):260-7. doi:		
<b>キーワード</b>		
介入試験、大学生、コンピューター		
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b></p> <p>本研究は同一のフィードバックを使用し動機づけ面接をする 2 つの短期個人的フィードバック介入（PFI）の有効性を評価し、高リスクで飲酒する大学生の飲酒量を減らしアルコール関連問題をコントロールの状態まで減らすことを目的とする。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>学生（N = 152）にビデオ・インタビュアーによるコンピューターによる PFI、生のインタビュアーによる対面 PFI、総合的な評価の状態、または最低限の評価のみの状態に無作為に割付けた。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>治療後 10 週間で、対面 PFI は広範囲の評価と最小評価のみの条件と比較して、週間飲酒量とピークおよび典型的血中アルコール濃度を有意に低下（d 値；0.32 から 0.61）させた。コンピュータによる PFI では、効果の大きさはコンピューターによる介入を使用している他の研究（d 値；0.20 から 0.27）と同等であったが、グループ間の有意差は明らかではなかった。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>対面で PFI をおこなうことが大学生のアルコール消費の減量を助けることが示唆された。コンピュータによる PFI であるビデオ・インタビュアーは、有用ではあるが、必ずしも生のインタビュアーの完全な代りにはならないことが示唆された。</p>		